

市民と議会が交流しともに変わる —私の中での変化

前芽室町議会改革諮問会議会長

蘆田 千秋

1 議会に関わった五年間の活動

芽室町議会改革諮問会議の前会長の蘆田です。

私は、子どもを自然豊かな場所で育てたいという気持ちで、二〇〇四年に東京都品川区から芽室町に移住し、町内でも山あいの上美生（かみびせい）地区に住んでいます。農業が盛んで移住者も多い五〇〇人くらいの集落で、小さな市街地がある地域です。

今回の自治講座で、これまでの経験を話してほしいという依頼を受け、私が一体何を話せばよいのだろうかと思悩んでいました。主催者側からは、以前北海道自治研究に掲載した内容（「町民からみた芽室町議会改革—議会モニター制度と議会改革」二〇一六年六月）に沿って、議会に対する気持ちの変化などをお話していただければ十分ですといただき、少し気が楽になりました。現在は次の世代の諮問会議委員が活動しており、

私自身は議会の仕事に関わっていませんが、先ほどから講座を聞き、配布された資料を読んでいくうちに、あの頃のワクワクした気持ちを思い出しているところです。

私は、芽室町議会モニターを一年間、議会改革諮問会議委員を二期四年間務めました。今日は両委員を務めた五年間とその前後で、議会に対する気持ちが変わったかをお話したいと思います。

議会モニターの楽しい議論

最初、「議会モニターになりませんか」と声を掛けられたとき、議会についての知識は全くなく、議会がどのような活動をしているのか分かりませんでした。議会モニターの仕事は議会に参加し、どう感じたのかをレポート形式で提出すると聞いたので、ハードルは低く、楽しそうだと思え、そして自治体や議会のことを知るのにちょうどいい機会だと思いい参加を決意しました。

私がモニターになったのは、制度が立ち上がったばかりで、運営も含めて手探り状態でした。モニターは「スクールバスが自宅の近くにこない」など、自分や地域の困りごとを伝える事が任務、と考えていた人もいたように思います。当時の議会事務局局長だった西科さんは「そういう事も含めて、何でも構わないですよ」と言ってくれたので、少しづつ議会とは何だろうと考えはじめ、いろいろなことを話した一年でした。

モニターになったばかりのころは、議会のことを文章や言葉で説明されてもなかなか理解できず、自治体の制度や専門用語も全くわからなかった。で、事務局長の西科さんに何度も質問しました。質問の度にたくさん資料が出てきて、説明してもらおうのが常でした。時には「これを読んで欲しい」と文献を提供してもらい、それを夢中で読みました。読むとまた分からないところが出てくるので、また議会事務局に質問をして、さらに資料や本を読むことを繰り返しているうちに、議会や自治のことがおもしろいと感ずるようになってきました。

さらに、議会サポーターとして参画して下さっていた先生方の存在が私たちモニターを意識を変えてくれたきっかけになったのは間違いありません。今振り返ると、今日ご出席の神原先生をはじめ、議会サポーターの先生方に素朴な質問をたくさんしたと思いますが、ていねいに教えていただいていたと強く思うことができ、とても楽しい一年でした。こうしたやり取りを繰り返すことで、議会モニ

ターという仕事がだんだんと面白くなり、モニター自身が自分たちで議会とは何なのかを考えるようになり、モニターの間で様々な議論をした記憶があります。

モニターになるまで、二元代表制という言葉は知りませんでしたし、ほとんどの町民も知らないと思います。まちがこうなつたらいい、こうしてほしいという相手は、議会あるいは行政の執行機関のどちらがいいのかとサポーターの先生に聞くと、両方にいえばいいとアドバイスをもらいました。執行機関と議会は対立しているわけではありませんが、なんとなくそういうイメージがありました。議会モニターになって分かったことは、執行機関と議会はけんかしているのではなく、お互いが自分たちのまちをよくするために動いているので切磋琢磨すればするほどまちが良くなるということがよく分かりました。

一期目のモニターは、まちに対して熱い思いを持った個性的な人たちばかりで、事務局長の西科さんは大変だったと思います。そうした個性的なモニター同士で自分たちのまちが「こうなつたらいいな」と熱心に話し合い、いいことが気楽にいえる感覚で、楽しいと思えた一年間でした。

モニターから改革諮問会議委員へ

議会モニターを経てから、議会改革諮問会議の委員になりました。モニターのときは自由に発言し、発言には責任が生じない楽しい意見交換でし

たが、改革諮問会議の委員になると責任ある発言が求められるのでは、と負担を感じました。

でも、一年間議会のことに関わってきたので、モニターのなかから諮問会議委員として関わる必要だとの責任感も生まれていました。

最初は、議員報酬、議員定数、委員会数、政務活動費、議会改革・活性化、議会基本条例の適宜改正の六項目について諮問がありました。どれも重い課題です。普段は議会に対して何もいわない町民も、報酬といったお金に関わることには厳しい意見をいう人が多いので、諮問委員になることに重い気持ちがありました。

一期目のモニターは、議会の改革について熱心に議論する人たちで、モニター会議が終わつても、居酒屋に場所を変えて活発に談論するオツチャンたちのなかから諮問委員をやるうという声が出てきて、私も委員を引き受ける気持ちになっていきました。

議会改革諮問会議も立ち上がったばかりで、運営は大変でした。それぞれ自分自身の意見を持つ委員が参画していますので、その集約はもちろん、町民全体の意見を議会に伝えなければならぬというところで悩みました。悩みがあったからこそ、長い時間をかけて議論もできましたし、私は議会モニターの経験から、町民目線から、議会目線からの両方を体験でき、視野が広がっていたことが議会改革諮問会議では役立ちました。この時も、議会事務局がサポートしてくれたので、難しい課

題対応を求められていましたが、有意義な時間を過ごすことができました。

2 自分にとって議会モニターと諮問委員はなんだったのか

いまは議会のことから離れ、外から振り返ってみることができるようになりました。議会モニター時代は、右も左もわからないことばかりでしたが、勉強を重ね、理解できるようにになると楽しく、発言に責任を問われないこともあり気が楽な部分もありました。議会を「人」と仮定して、この人はどういう人なのか、やっていることやるべきことを知った上で、こうしたらいいのとか、そうではないのではないかとアドバイスする感覚でした。

一方、議会改革諮問会議委員は、委員同士で話し合つて諮問に対して答申をしなければならぬので、議会モニターとは異なると思います。それと、改革諮問会議という集まりは、議員とも、議会事務局とも違う立場で、一つのチームとして提言します。

議会事務局は諮問委員会が動きやすいようにしてくれて、こうしてほしいという指示はなかったので、委員は勉強すればするほどまちのことを理解し、いいところや悪いところを理解し見られたことが、活動の成果だと思えます。

諮問委員それぞれの思いや考えが違つていても、

諮問会議として答申をするため長い時間をかけて議論して結論を出すので、答申のあとで自分の考えとは異なるという委員はいません。町民の意見を伝える使命があったことから、「もつとよくなるのでは」と自由に話しましたが、厳しい意見も沢山でたので、議会からすると議会改革諮問会議を面倒に感じたことがあったかもしれません。

このように、議会に関わるという意味では同じでも、モニター、諮問委員と、自身の置かれた立場や役割によって感じ方が違う五年間だったと思います。

3 モニター間、諮問委員間のやりとり

議会モニター制度は一〇人のモニターで始めました。研修会に来てモニターをする、議会のネット中継を見てモニターをする方など、それぞれの生活スタイルやできるかたちで活動をし、全員が一堂に会して話し合うことは少なかったのですが、モニターになったからこそ知り合えた人と話をして、自身の視野が広がりました。最初のモニターは熱心な方が多かったのですが、町民が議会に関心を持つ、理解してもらおう入り口として議会モニター制度はいいことだと思います。

モニターになって知ったことをほかの町民に話しても、町民は議会について知らないことが多く、私自身が変わったので、思わずどうして知らないの、と疑問に思ってしまうこともあったりしまし

た。でもかつての自分もそうでした。町民に議会を知ってもらうために、多くの町民にモニターになってもらい、そのなかからもつと議会や自治のことを勉強したいという人が出てくると思います。議会モニターという機会を提供するのが大切だと思います。

議会改革諮問会議は、各委員が同じ目標で答えを出していかなければならないので、その意味では議員の活動と似ている部分があると思います。ただ、私たちは知識がなかったので、資料や文献を調べて勉強しようやく理解するといった状況でした。諮問委員同士が仲間として一緒に勉強し、目標に向かって努力して答申をまとめた達成感がありました。こうした経験を経て、諮問委員の仲間は、まちに對する意識が深くなったと思います。

4 自分の何が変わったのか、私たちが議会に何を伝えたのか

私は、議会モニターと議会改革諮問会議委員の両方を経験し、自分の意識が変わったと思います。議会に関わった五年間は、やらされている感覚は全くありませんでした。モニターになって議員の活動を知り、町民の視点に加え、議会の中身を見られたので、議会を見る視角が変わりました。モニター

の期間は一年でしたが、いろいろな研修機会の場で、様々な話を聞いたことは有意義でした。これに對して四年間の諮問会議委員の時代は悩

むことが圧倒的に多かったと思います。私以外の四名の委員は年上の男性で、人生経験も豊富で、まちのことを理解しかつ人一倍まちのことを思っている人たちが委員だったので、議会にとつても刺激になったと思います。

諮問会議の中では議員の資質が話題になりました。資質といってもハッキリせず分りにくいのですが、諮問会議で議論しているうちに資質のことになってしまふことが度々ありました。芽室町議会は開かれた議会として、会議はインターネット中継で公開され、議会に對して厳しい発言をする町民は議会中継を見ていて、議員がどんな質問をしているのか知っています。そして、会議が全国に流れていると思うと恥ずかしいと町民が指摘したからには、町民はもつと議会に参加しなければなりません。言われた議会の側も自分たちで改革していくきっかけになり、町民も参加する、議会も意識する、この切磋琢磨がまた議会改革につながっていくと思います。

ただ、議員は町民から選ばれている。選挙で選ばれたのが議員です。私たち諮問委員は選挙で選ばれたわけではないので、諮問委員が議員に對して意見をいついていいのだろうかという疑問が常にあり、悩んでいました。

モニター、諮問委員を経験して、議会が今後どうなっていくのか気になるので、さまざまなかたちで、議会に参加していこうと思いますし、モニターなどの経験者にそうした気持ちがあれば議

会は開かれていくのではと思います。

先日、芽室町議会議員二名の補欠選挙があり、一人は諮問委員を経験した人が立候補し議員になりました。モニター、諮問委員を経験したことにより、議員になって改革するという思いになったのだと思います。

5 議会との関わりが与えた影響とこれから

「議会がよくなれば、まちがよくなる」といわれるように、まちをつくっていく上での議会の役割は大きいと感じていますので、私もその通りだと思います。

私はこの五年間で、町民と議会が連携できれば自分たちが住んでいるまちが元気になっていくのではないかと考えるようになりました。しかしながら、いまだに多くの町民は議会の役割を理解できていないと感じます。だからこそ、議会が自分たちの活動を知らせることが大事です。私たちがモニター、諮問委員として関わるようになったのは議会改革の成果だと理解しています。

現在は諮問会議の委員を終了して、議会とは離れているのですが、自分の立場でまちをよくするにはどうしたらいいかを考えている気持ちは変わりません。私の住んでいる上美生地区の人口は約五〇〇人で、小中学校もありますが、町の市街地から一六キロ以上離れていて、公共交通機関はあ

りません。今後の人口減少や少子高齢化を考えると、自分たちの地域を自分たちの力でどう元気にしていけるのか。地域から見える美しい星空が一〇年後、二〇年後も同じように見続けられる地域にしようという思いから、二〇一四年に地域の有志が集まり「上美生ほしぞらプラン会議」を立ち上げました。実はこの会議を立ち上げたのは、議会モニター、諮問委員に関わった時期と同じで、地域で活動するきっかけを与えてくれたのかもしれない。

今年三月、上美生地域を含む町内の農村地域にあったJA店舗がすべて閉鎖となり、高齢者が買い物ができなくなりした。そこで、上美生ほしぞらプラン会議のメンバーも含め、地域でNPO法人を立ち上げて、地区内で店舗を再開させようと活動をしています。

自分の住む上美生地区で活動をはじめたのは、議会モニター、諮問会議の経験と活動が大きく影響し、いまの自分があると思っています。「議会つてなに」という町民は多いでしょうが、議会は重要な存在です。

これからも高齢者や子どもたちが上美生地区で暮らせるようにするため、芽室町の一地区から、芽室町全体を元気にしていこうと活動しています。それは、議会がまちをよくしようとするところと同じゴールに到達できると思っています。

この後の第二部でいろいろお聞きくださればと

思います。ありがとうございました。

△あした ちあき▽

本稿は二〇一八年七月二日に開催した「自治体議員をめざす人のための自治講座Part2」の講義をまとめたものです。
文責・編集部